

## 2022年

## 春の全国代表委員会 開く

国公労連女性協は、2月26日、都内で2022年春の全国代表委員会をオンラインで開催しました。8単組、1ブロック・7県国公からオブザーバーを含め38名が参加しました。

委員会では、「せやろがいおじさん」の講演映像を見て学習をした後、執行部より女性協作成の「人生いろいろリーフ」や「折り鶴行動」などを活用した学習や対話、6月18～19日に「第51回国公女性交流集会」をオンラインで開催する等の方針提案があり、各職場でのとりくみや実態などの討論を行い、2022年の春闘方針を確認しました。

参加者からは、制度改善がされても職場体制が十分ではなく制度が利用しにくくなっている実態やオンラインを活用して各種集会に参加し学習を積み重ねているなど、コロナ禍でも工夫したとりくみが報告されました。

以下、各組織からの発言の要約です。

(全医労) 国立病院の機能強化を求める大運動のとりくみ報告 署名への協力を。

10・11月「秋の組織拡大・強化月間」126人の仲間を迎え入れた。大会を増勢で迎えられよう新人歓迎にとりくむ

(全労働) 制度改正については機関紙等で解説をした。

オンラインツアーで平和学習を行った。データが重たくなり混乱もしたが全国どこからでも参加できるので、今後も行いたい。

中央女性委員会(9名)をオンラインで開催、2/11には全国女性代表者会議を総計48名で開催。アンガーマネジメント講演や分散会。分散会ではカスハラや体制拡充の要求が多かった。

(全法務) すべての会議がオンラインになり、行事は中止となっている。

母性保護リーフを活用し休暇制度周知等できる限りの行動は行っている。(会話の機会がなくさみしい一面も)

青年女性協で、加入呼びかけのツールとして勧誘動画を作成した。

(全司法) 2月に地連女性担当者会議を開催し、最高裁交渉を行った。その際毎年行っている「寄せ書き」を提出。寄せ書きには、「コロナ対応等で職場体制が厳しくさらに忙しさに拍車がかかっている」「とれる制度がとれない」「通勤緩和の取り控えもあった」等の声があった。



折り鶴行動は、今年は全体でとりくむよう指示。「寄せ書き」同様つながるツールとしてとりくみたい。

請願署名は毎年採択されているが、増員につながらない。

#### (国交労組) 航空管制職場のとりくみ報告

航空管制官は女性の割合が多い職場。支部のアンケート結果で「生休がとりづらい」との声が。理由としては「職場の理解がない」「知られたくない」等だけでなく「出勤簿が他人に見られるところにあるから」というものがあった。支部として他人に見られない場所へ置くよう要求し改善された。その結果取得率も少しアップした。

このとりくみを通じて、ちょっとした配慮と管理職と男性への学習の必要性がわかった。

#### (東北ブロック) 単独の女性運動なし。県としては、秋田・岩手・宮城にあるが単独でのとりくみは難しい。県国公本体に女性役員がいるところもある。ブロックとしては従来、春闘討論集会で分科会していたが、オンライン開催になり交流等ができなくなった。

ブロックとしては、全国税や国公一般の署名行動へのとりくみをした。また提起されたとりくみへの結集を呼びかけているが報告等は求めている。

#### (宮城国公) 11/26に単組代表者会議開催した。組合員向けだけでなく市民に対しての各種アピール行動(駅頭スタンディング)等を行っている。オンラインでの集会等が増え、今までより参加でき、いろいろ情報が得られる。今は勉強する時期と考えて活動している。

#### (愛知国公) 1/10 定期大会開催。現在4単組のみで人も同じ人が。その人が退職すれば役員が3人になってしまう。どう次につなげるかが課題。コロナが拍車かけている。

3/9に人事院中部事務局と交渉。これは必ず行っている。

オンラインでの会議の可否については、様々な意見がある。

#### (全厚生) 女性部活動報告 幹事会毎月1回オンラインで会議、とにかく継続。

2/20 総会と交流集会開催。「ジェンダーと生きづらさ」の内容で男性目線からの講演(妹尾知則氏)。その中でも、「台湾のトイレは男女別ではなくすべて個室、多目的なもの」ということにビックリした。

意見として女性部があることが問題というものがあった。自分も以前は男性並みになるのが男女平等と思っていたが、今は、自分らしく活動できることが必要と思う。

家族がコロナ等になったときに女性が休まなければならず問題になっている。

年金機構では、非常勤の雇い止め問題で相談が多くなっており組合員も増えている。

交流集会には、昨年(男性含めて23人)以上の参加を目標に、今年もとりくみたい。

#### (神奈川) せやろがいおじさんの講演、よかった。無意識のバイアスをどう乗り越えるかが課題。



県国公女性協は休止。県国公本体へどう女性役員を送り込んでいくか。国公労連のジェンダー平等推進会議について今後注視していく。

自分の単組も含め、組織が危機的状況であるため打開が必要だが、拡大が難しい。活動の基礎知識の学習等を。

国公共済会の優位性に確信を持ち拡大のツールとして新採加入に向け頑張りたい。

(国交労組：オブ) せやろがいおじさんの講演、自分にも当てはまりところ多かった。勉強すればするほど上から目線になっていた。今後は一人一人に目線を落として、拡大や女性役員登用についてアプローチしていきたい。

(国交労組：オブ) 福岡県国公の役員は男性ばかりで女性の入る余地がない。

女性が多い会議での発言はバイアスがかかり発言しづらかった。今回はオンラインだからこそ発言できた。

(全通信) 支部 13 支部女性組織、コロナで活動は減少している。東海支部は女性組凍結。それでも宮城、熊本、広島は月 1 回会議している。ランチ会等している。情報紙を女性独自で作成し、しゃべり場的媒体となっている。

採用研修がオンラインになり同期がわからない。独自女性集会はリアル開催を考えている。

### 「せやろがいおじさん」講演について

近頃耳にすることが多くなった「アンコンシャスバイアス」という言葉ですが、とても詳しい説明だったにも関わらず、非常にわかりやすく聞きやすかったと感じました。

また「マイクロアグレッション」という言葉を初めて知りました。なにやら難しい響きですが、説明を聞くと「ああ、あるある！」と終始うなずきながら拝聴しました。

とても分かりやすいので、10代の若いひとたちにも聞いてほしいなと思いました。

(女性)

せやろがいおじさんの講演映像はYouTubeで組合員限定公開しています。再度見たい方は各単組本部・支部へお問い合わせください。



以前から「育児が少し落ち着いたら組合役員をやろう」と思っていて、ようやく担当を引き受けたのですが、やはり大変です。皆さんすごいなと思います。同時に、育児や介護で大変な時こそ生の声を上げられるのにな、とも思います。今後は、女性にやさしい組合活動にシフトしていくといいなと思っています。(女性)



参加者の声 (一部)

## 2022年春闘アピール

私たちは、2月26日、春の全国代表委員会をオンラインで開催し、2022年春闘方針を決定しました。

新型コロナウイルス感染症の新たな変異株（オミクロン）が現れ、再び感染が拡大しています。感染拡大の背景には、日米地位協定により、在日米軍に日本の検疫法などが適用されず、基地周辺で市中感染を引き起こしたことが一因としてあります。にもかかわらず岸田政権は、日米地位協定改定を否定し、米軍優先の姿勢を示しています。また岸田首相は年頭所感において、憲法改正を「今年の大きなテーマ」に掲げました。国民のいのちとくらしを守るべき政権は、新型コロナ対応方針で、重傷者以外原則自宅療養や経済優先の施策を打ち出し、国民の願いと逆行しています。いま国民が求めているのは、憲法改正ではなく、憲法を活かした社会保障や平和外交です。憲法改憲NOの声を上げていきましょう。

私たち国家公務員は、国民のいのちとくらしを守るためにコロナ禍においても日々奮闘しています。女性活躍とワークライフバランスの推進が掲げられ、女性の採用・登用がすすんでいます。定数が削減され、長時間過密労働が常態化し、仕事と生活の両立、働き続けることが困難になってきています。そんな厳しい職場の中で、多くの非常勤職員が公務・公共サービスを支えています。休暇制度など、前進面はありつつも、雇用が不安定で、常勤職員との均衡待遇実現には程遠い状況です。常勤職員も非常勤職員も自己責任に陥らず、分断を断ち切り、「自らの要求は自らの手で」実現していく一歩を踏み出しましょう。仲間の声を聞き、思いを共有しながら、誰もが自分らしく、いきいきと働ける職場にしていきたいと思います。

昨年、国公労連の大会で、ジェンダー平等推進チームが設置されました。いま、ジェンダー平等をめざすとりくみは、格差と貧困を解消し、一人一人の人権を守り、社会を変えていく意味で重要です。コロナ禍で女性を取り巻く状況は、引き続き深刻です。非正規労働など雇用の調整弁である女性が多く失業し、介護疲れやDVなどの影響で、女性の自殺者が増えています。つながりが断たれ、生きづらさを抱える人への救いの手が届きにくくなっている実情があります。ひとりぼっちの労働者をなくすために、地域・職場に労働組合が求められています。

さまざまな矛盾を抱える女性の想いは、職場・社会を変える原動力です。明るく元気でいきいきと働き、平和で安心して暮らせる社会をつくるために、しなやかに、したたかにあきらめず、なかまの輪を広げていきましょう。さまざまな人たちと悩みや不安を共有しながら、ジェンダー平等で、すべての人権が大切にされる豊かで平和な社会の実現のために奮闘しましょう。

2022年2月26日

日本国家公務員労働組合連合会女性協議会 2022年春の全国代表委員会

## 編集後記



新型コロナウイルス感染症の収束に目途も立たない中、会議の二日前には、ロシアがウクライナに侵攻を開始するという戦争勃発のニュースが飛び込んできました。戦争になれば、子どもが、老人が、今まで普通に暮らしていた市民が犠牲になる。これまでも繰り返してきた事実です。私たちにできること、「No War」「ロシアはウクライナから即時撤退せよ」の声を各地から上げましょう。(e)